文法への扉2 走る。走らない。走ろうよ。(用言の活用)(2)

動詞の活用の種類

動詞の活用の仕方は5種類に分けられる。

①**五段活用**……活用語尾(ごび)が五段(ア・イ・ウ・エ・オ)にわたって変化する。
②**上一段活用**…活用語尾がイ段を中心に変化する。
③**下一段活用**…活用語尾がエ段を中心に変化する。
④**カ行変格活用**…「来る」のみの特殊(とくしゅ)な活用。
⑤**サ行変格活用**…「する」や「〜する」の形の複合語の特殊な活用。

活用の種類	基本形	語幹 (活用形／続き方)	未然形 (―ない ―う(よう))	連用形 (―ます ―た(だ) ―て(で))	終止形 (―。言い切る。)	連体形 (―とき ―こと ―ので)	仮定形 (―ば)	命令形 (―。命令して言い切る。)
五段	話す	はな	そ さ	し	す	す	せ	せ
上一段	起きる	お	き	き	きる	きる	きれ	きろ
下一段	食べる	た	べ	べ	べる	べる	べれ	べろ
カ変	来る	○	こ	き	くる	くる	くれ	こい
サ変	する	○	さ せ し	し	する	する	すれ	しろ

※カ変・サ変や、上一段の「着る」、下一段の「寝(ね)る」などの動詞は、語幹と活用語尾を区別できない。

音便

発音しやすいように音が変化することを**音便(おんびん)**という。五段活用の動詞は、連用形で音便が現れることがある。

・**イ音便**
(例)書く＋た → 書きた → 書いた
・**撥(はつ)音便**
(例)読む＋た → 読みた → 読んだ
・**促(そく)音便**
(例)走る＋た → 走りた → 走った

基本形	語幹 (活用形／続き方)	連用形 (―ます ―た(だ) ―て(で))
書く	か	き い
読む	よ	み ん
走る	はし	り っ

動詞の活用の種類の見分け方

五段・上一段・下一段は、助動詞「ない」を付けて見分けるとよい。
(例)話す　＋ない → 話さ|ない　五段活用は「ア段」に変化 (a)
起きる＋ない → 起き|ない　上一段活用は「イ段」に変化 (i)
食べる＋ない → 食べ|ない　下一段活用は「エ段」に変化 (e)

確認テスト

(1) 動詞「見る」を、①～④の続く言葉に合わせてそれぞれ形を変え、ひらがなで答えなさい。

① ［　　］ない　② ［　　］よう

③ ［　　］ます　④ ［　　］ば

(2) 動詞「来る」を、①～③の続く言葉に合わせてそれぞれ形を変え、ひらがなで答えなさい。

① ［　　］ない　② ［　　］ます

③ ［　　］ば

(3) 動詞「する（サ行変格活用）」を、①～③の続く言葉に合わせてそれぞれ形を変え、ひらがなで答えなさい。

① ［　　］ない　② ［　　］ます

③ ［　　］ば

(4) 次の①～⑤の動詞の活用の種類を、それぞれ**ア**～**オ**から選びなさい。

① 開ける［　］　② 閉じる［　］

③ 来る［　］　④ 勉強する［　］

⑤ 泳ぐ［　］

ア 五段活用　**イ** 上一段活用　**ウ** 下一段活用

エ カ行変格活用　**オ** サ行変格活用

(5) 次の①～③の動詞の連用形でおこる音便を、それぞれ**ア**～**ウ**から選びなさい。

① 遊ぶ［　］　② 歩く［　］　③ 言う［　］

ア イ音便　**イ** 撥音便　**ウ** 促音便